

**ニホンジカ食害防除対策の現地
検討会を開催し、民国連携の取組**

【森林技術・支援センター
・ 岐阜森林管理署】

十二月五日、ニホンジカ食害防除対策の現地検討会を開催しました。

ニホンジカによる森林被害は、再造林や適切な森林整備の実施に支障を及ぼしています。また、樹木の剥皮による天然林の劣化や下層植生の食害等により、その地域全体の森林が持つ公益的機能の發揮に大きな影響を与えています。

こうした状況の中、岐阜署では、防護柵の設置や、くくり罠による職員実施の捕獲などのニホンジカ被害対策に取り組んでおり、本年度は十一月末現在において、百二十六頭を当署職員により捕獲しています。

本検討会は、このような取組について、地域の林業関係者との情報共有や意見交換を行うことにより、効果的な対策の実施を目的に平成二十八年年度から毎年開催しており、本年度は岐阜県及び地元市町の担当者など四十五名が参加しました。



午前中は、神渚コミュニティセンターにて、岐阜県森林研究所の片桐主任研究員を講師に迎え、「ニホンジカ対策の現状と課題」と題し、ツリーシエルトの種類の違いによる苗木の成長に及ぼす影響など、貴重なお話を聞かせていただき、当局職員からは、「小林式誘引捕獲法」の紹介などを行いました。

午後からは、七宗国有林に展示している箱罠や囲い罠、防護柵、単木保護資材を視察し、参加者間で意見交換を行い、くくり罠の設置体験もいただきました。今後も民国の関係者が情報を共有し、一体となった対策を着実に推進していくことが重要だと考えています。



参加者によるくくり罠設置体験

**信州大学で森林・林業の現状と
課題について講義**

【南信森林管理署】

十二月十一日、上伊那郡南箕輪村にある信州大学農学部において、農学部二年生約四十名を対象に今泉局長が「森林・林業とSDGsそして国有林の果たすべき役割」と題し、講義を実施しました。

例年要望を受け、実施している本講義は、これから専門課程を選択する大学二年生に対して、森林・林業に対する国有林の取組等について広い視野で学んでいただくことを目的に行われています。

今泉局長は、森林・林業とSDGsとの関わり、環境・経済・社会のそれぞれの観点から見た森林・林業に係る最近の動向や課題、国有林の貢献等について、話題や自らの問題意識・疑問点も織り交ぜながら、学生の皆さんに多様な視点を持って考えていただくきっかけになればと話していました。

講義の後半では、当署の若手職員が「森林管理署の業務について」と題して、講義・説明を行いました。



た。若手職員は、管内概要や自分たちの職務経歴、現在の業務内容のほか、生活スタイルといった業務外のことにも触れ、国有林の職員として働くことをイメージしやすくするよう工夫していました。

講義のあと、参加した学生から多くの質問があり、中には「転勤の回数が多いのはなぜなのか」といった国有林での仕事について具体的なイメージをもって質問した学生もいました。終始良い雰囲気の中で実施された講義は予定時間を少しオーバーしましたが、国有林の仕事が次世代に対して十分にPRでき、森林や林業への興味・関心を高めてもらえたという手応えを感じることができました。



若手職員2名による講義

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【東濃森林管理署

恵那森林事務所】

森林官 森下 佳宏

恵那森林事務所は、岐阜県中津川市の南部に位置しています。中津川市は、リニア中央新幹線の岐阜県駅が建設されることでも注目されており、当事務所周辺



恵那山（岐阜県側から望む）12月上旬撮影

では着々と工事が進められています。

当事務所は「恵那山」を基点に落合恵那・中津恵那・阿木恵那の三つの国有林を管理しています。雄大にそびえる恵那山の標高は約二、二〇〇メートルであり、黒井沢ルートへの登山道は、令和二年七月の記録的豪雨により林道が崩壊し、未だ通行できない状況ですが、他にもルートがあるため、登山シーズンになると数多くの登山者で賑わっています。どのルートも歩道が整備されており、歩きやすく楽しく登れる山です。かつては「胞山」と呼ばれ、名前の由来とされています。興味のある方は、ぜひ登ってみてください。

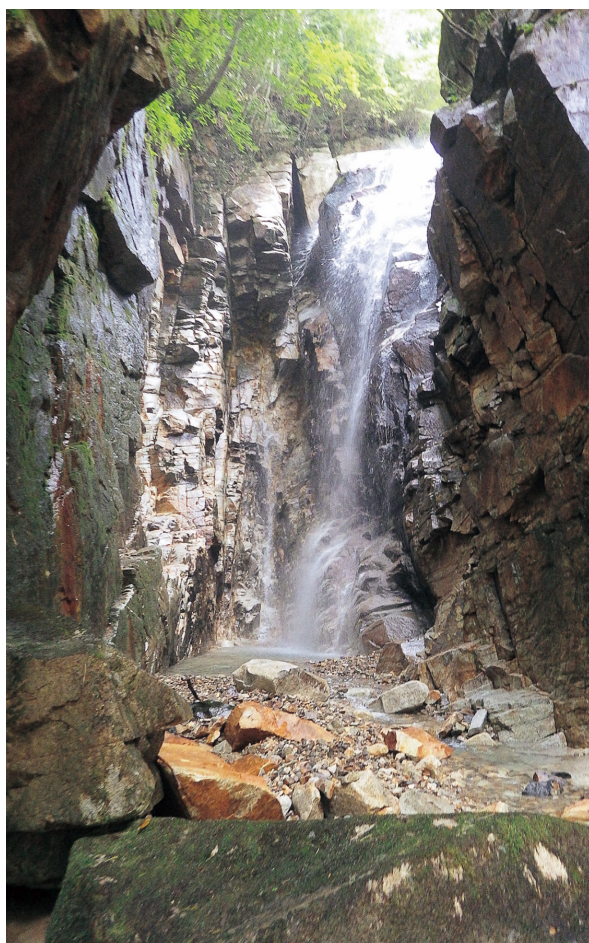
また、当事務所管内には、「焼岳」「天狗洞森山」「赤滝」といった見所もあります。日帰りで楽しめるため、観光客や地元の方々に親しまれています。

森林官の業務は、主に各種調査

生産・造林事業等の監督、境界巡検・巡視、獣害対策に従事しています。また、地域住民や入林者と接する機会も多いことから、管内での事故や熊の被害にあわないよう強く呼びかけています。

■未来の担い手へのメッセージ

自然相手に常に危険と隣り合わせの職場ですが、安全第一で職務に励んでいます。業務内容は幅広いものがありますが、自分の考えを取り入れ生かせる職場です。これから国有林を管理していくためには、若い力が必要です。



赤滝



着手前の請負者へ事業説明・指導



〈シリーズ「私の森語り」〉

シリーズ

「私の森語り」
もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「川を育む森を思う」



豊田市矢作川研究所
主任研究員
すざきとうこ
洲崎 燈子

■自己紹介

矢作川は長野県の大川入山（標高一、九〇八メートル）を源とし、長野・岐阜・愛知の三県を流れて三河湾に注ぐ一級河川です。

豊田市矢作川研究所は「一つの川に一つの研究所」を合言葉に、三十年前の一九九四年、矢作川漁協、枝下用水土地改良区（現豊田土地改良区）、豊田市による第三セクター方式で設立されました（二〇〇三年には豊田市役所に編入）。私は一九九八年の入所以来、矢作川流域の河畔植生や水源林、里山の現状と成立過程、望ましい

管理手法等の調査・研究に携わっています。



矢作川を遡上する天然アユ

■活動内容

当研究所は、川の豊かできれいな水の回復と、人々の生活にうるおいとゆとりを与える河川環境づくりをめざして、以下の三つを軸に活動を行っています。

- ① 流域の生物学的・人文学的研究
- ② 研究成果と流域情報の公開
- ③ 流域環境の保全に関わる諸団体の連携のサポート

主な研究テーマとしては、川と海を回遊する天然アユを指標種とした水生生物のすみやすい河川環境づくりや、自発的に水辺愛護活動を行っている地域住民への情報提供や活動目標づくりを通じた支援に取り組んでいます。



水源域の人工林調査



地域住民の活動による川辺の風景の変化

■メッセージ

矢作川流域は大企業の城下町を抱えながら自然が豊かで、住民が地域の自然に深い思い入れを持ち、保全活動をしてきた長い歴史があるのが特徴であり、魅力です。

この流域の七割を森林が占めていますが、森林で最も広い面積を占めているのが人工林で、次いで多いのがコナラなどの里山林です。これまでに流域の森づくりや木づかいに関わる皆さんと一緒に、市民参加型の人工林調査「森の健康診断」の開発と運営や、矢作川流域懇談会による「流域圏担い手づくり事例集」の作成に取り組んできました。

今後、川の水の恵みを受けている中、下流部の住民も巻き込んだ人工林や里山林の再生をお手伝いしていければと思っています。

○連絡先

〒471-0025

愛知県豊田市西町2-19

豊田市職員会館一階

電話 / 0565-34-6860

<http://yahagigawa.jp/>



特異な圏谷地形の高山植物群落

薬師岳・雲ノ平圏谷群高山植物遺伝資源希少個体群保護林

設定目的

薬師岳（二、九二六^{メートル}）の東側斜面一帯には、氷河によってできた圏谷（^{けんく}カール）が広がっており、その特異な地形に希少な高山植物が生育していることから、これらの個体群の保護・管理をしています。

地況・林況

当保護林は、飛騨山脈（北アルプス）の奥黒部山地に位置しています。薬師岳の東斜面に並ぶ四つの圏谷は、我が国で確認されている中で最も発達したものであり、学術上の価値も高いため国の特別天然記念物「薬師岳の圏谷群」に指定されています。

稜線付近には、ハイマツや雪田植物が群生しており、貴重なライチョウの生息地になっています。

シリーズ

中部の保護林(第33回)

所在地
富山県 富山市



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。



大正12年 スキーを用いた林内移動の様子
(現在の中信森林管理署管内)

「スキー」

日本におけるスキー史の始まりは、諸説あるものの明治四十四年に新潟県高田(現在の上越市)で陸軍がオーストリアのスキー術の指導

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第33回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登



昭和十二年 林業訓練の若者達のスキー風景
(現在の飛騨森林管理署管内)

その後、雪の多い地域の国有林の職員にとって、スキーは冬の森林内での移動や調査などの業務をこなすための身近な道具となりました。職場内でのスキー講習会・スキー

を受けてからとされます。この後、急速にスキー術は各地に広まるのですが、国有林においても早くから注目され、大正五年には東京大林区署(後に長野営林局となる組織の一つ)より「森林保護上のスキーの効用」という資料が出されています。雪の森林地域の移動に有用であるという点が重要だったのでしよう。初期のストックは一本杖で、スキー板もケヤキ材の重たいものがあつたようです。

大会もしばし開催されましたが、当時のスキー大会の種目には森林の巡視や樹木の測定も含まれた競技があつたようです。
昭和初期から十年代になると一般社会にもスキーはスポーツ・レジャーとして広がっていきませんが、国内のスキー場にリフトが設置されるのは戦後のことです。かつてのスキーは自分で担ぐなどして山に登った後に滑るものでした。



昭和三十年頃
樹木の直径を測定しながら行われたスキー競技
(現在の飛騨森林管理署管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、コードを読み込んでください。



令和6・7年度 国有林モニター の募集について

中部森林管理局では、令和6・7年度の「国有林モニター」を募集しています。

この募集は、中部森林管理局管内（富山県、長野県、岐阜県、愛知県）にお住まいの皆様に、国有林が果たしている役割や現状（森林の整備、木材の供給、森林とのふれあいの場の提供等）をご理解いただくとともに、国有林に対するご意見等を直接伺い、今後の管理経営に役立てていく取組の一環として行っています。

国有林モニター依頼期間中は、定期的に林野庁や森林管理局の広報資料等をお送りします。

募集人数：30名

依頼期間：令和6年4月1日から令和8年3月31日まで（2年間）

依頼内容：①国有林や森林・林業に関するアンケート調査への回答
②国有林の管理経営に関するご意見、ご要望等の提出
③モニター会議、現地見学会への出席（旅費のみ支給）

応募資格：管内在住の満18歳以上（令和6年4月1日時点）で
電子メールにより情報を受信できる方

応募方法等：局ホームページの専用申し込みフォームよりご応募ください
（郵便でも応募可）



応募締切：令和6年2月16日（金曜日）必着

※これまでの活動内容については、局ホームページをご覧ください！



令和4年度
現地説明会の様子
（赤沢自然休養林）



令和5年度
現地説明会の様子
（猿沢治山事業地）

お問い合わせ先：企画調整課 国有林モニター担当 電話050-3160-6508

編集長だより

（中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。）

この度の能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災されました皆様に心よりお見舞いを申し上げます。また、被災地において救助活動や支援にあたられている方々に深く敬意を表します。

1月1日、中部森林管理局においても災害対策本部を設置し、職員や家族の安否確認、建物の点検、情報収集などを行い、1月5日には富山県と共同で富山県西部と東部の国有林及び民有林における被害状況等の調査をヘリコプターを使用して上空から実施しました。その他、各出先機関や関係団体等と協力し、災害の応急対策に必要な資材を石川県庁に届けるなどの対応を行っております。

上空からの調査の結果、今回の地震による新たな崩壊地は確認されませんでした。引き続き、積極的に関係機関等と連携し、各種対応を行ってまいります。



デジタルテーマ「白」

12.立山雪景色2(富山署管内)